

高病原性鳥インフルエンザ発生予防研修会次第

日時 令和7年5月1日（木）

13時10分～15時00分

方法 Web開催（Zoom）

1 開 会

2 研修会

（1）挨拶（全農広島県本部畜産部鶏卵課 山本課長）

（2）演題「JA グループ広島 AI 防疫対策 取組事例紹介」

講師：全農広島県本部畜産部鶏卵課 土井徳亮氏

（3）質疑応答

3 広島県における令和7年度シーズンの取組について

4 全体討議

JAグループ広島

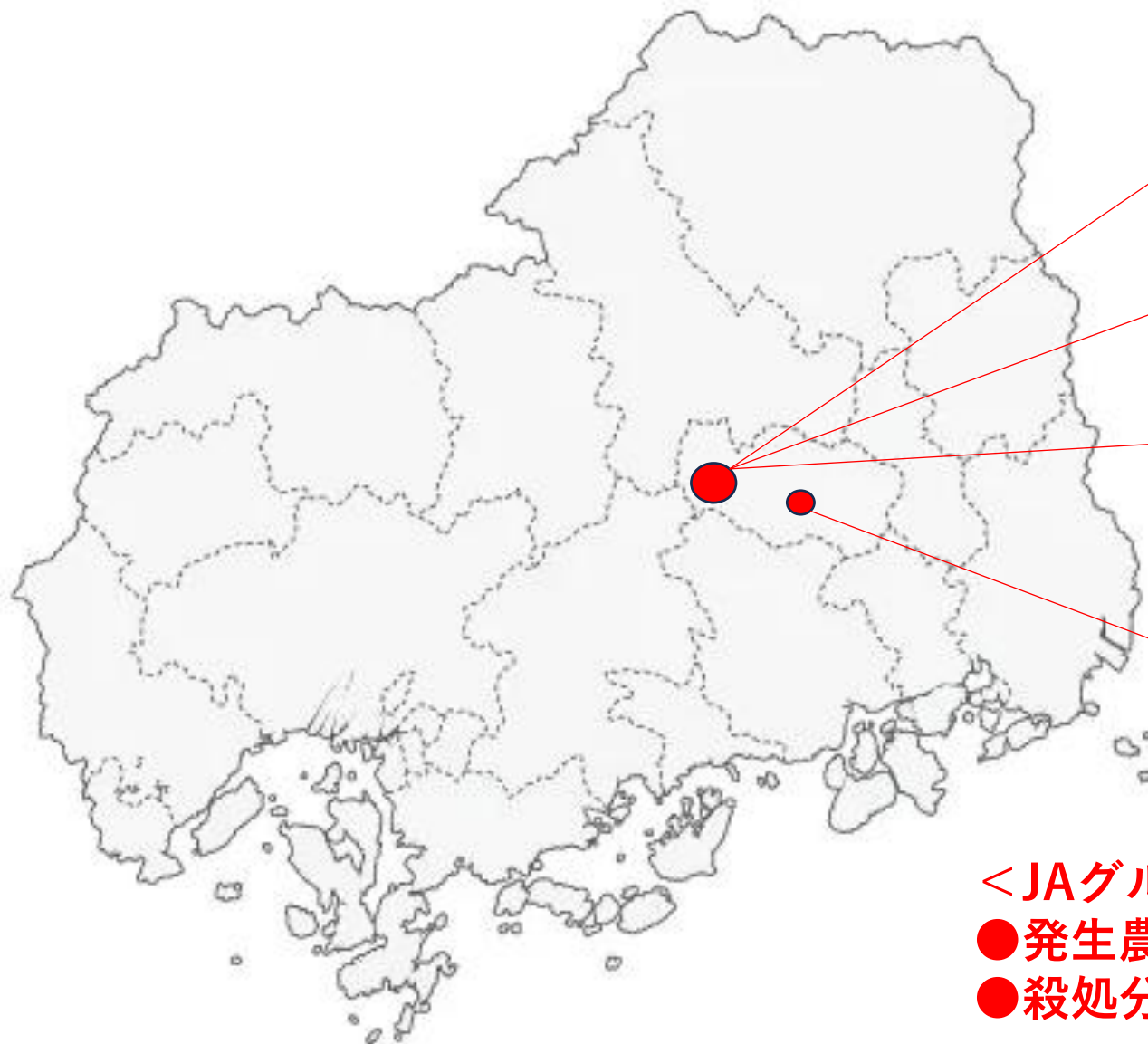
AI防疫対策 取組事例紹介

1. グループ農場 AI発生状況 (2022-2023シーズン)

1-1. グループ農場 AI発生状況

2022-2023シーズン

() 内は疑似患畜判定日



A農場：飼養羽数12万羽
(2022.12.16)

B農場：飼養羽数18万羽
(2022.12.19)

C農場：飼養羽数13万羽
(2022.12.27)

D農場：飼養羽数30万羽
(2022.12.30)

<JAグループ広島 発生状況>

●発生農場数：4農場

●殺処分羽数：約72万羽

1-2. グループ農場 AI発生状況

AI発生～再導入完了

AI発生から16ヵ月後

再導入開始から10ヵ月後

	2022.12	～	2023.6	2023.7	2023.8	2023.9	2023.10	2023.11	2023.12	～	2024.4
A農場	発生	〰	再導入開始			完了				〰	
B農場	発生	〰	再導入開始				完了			〰	
C農場	発生	〰							再導入開始	〰	完了
D農場	発生	〰		再導入開始				完了		〰	

2. AI発生農場再開に向けた改善

2-1. 農場防疫改善内容（A・B農場）

疫学調査結果と改善実施内容

疫学調査結果

- 1) 衛生管理区域の境界が不明瞭
（隣接農場および公道）
- 2) 外部業者の鶏舎ごとの長靴交換
未実施
- 3) 共同利用施設（堆肥舎）へ出入り
する車両消毒の未実施
※衛生管理区域を跨ぐ移動



改善実施内容

- 1) 衛生管理区域境界へのフェンス
設置
- 2) 外部業者用の鶏舎専用長靴の設置
- 3) 2農場で衛生管理区域を分けてい
たA・B農場について、1農場への
統合による衛生管理区域の見直し
実施

2-2. 農場防疫改善内容（C農場）

疫学調査結果と改善実施内容

疫学調査結果

- 1) 衛生管理区域の境界が不明瞭
- 2) 鶏舎専用長靴への交換未実施
- 3) 防鳥ネットが一部めくれ、2cm以上の隙間あり



改善実施内容

- 1) 衛生管理区域の見直しおよび衛生管理区域境界へのフェンス設置
- 2) 鶏舎専用長靴の設置
- 3) 防鳥ネット（2cm以下）の設置および修繕実施

2-3. 農場防疫改善内容（D農場）

疫学調査結果と改善実施内容

疫学調査結果

- 1) 衛生管理区域の境界が不明瞭
- 2) 鶏舎内長靴への履き替えの際、
鶏舎外長靴との交差あり
- 3) 鶏舎へ入る際の手指消毒未徹底
- 4) 鶏舎間を移動する際、長靴交換・
消毒は未実施
- 5) 鶏舎外への鶏糞搬出作業時、長靴
交換・消毒は未実施



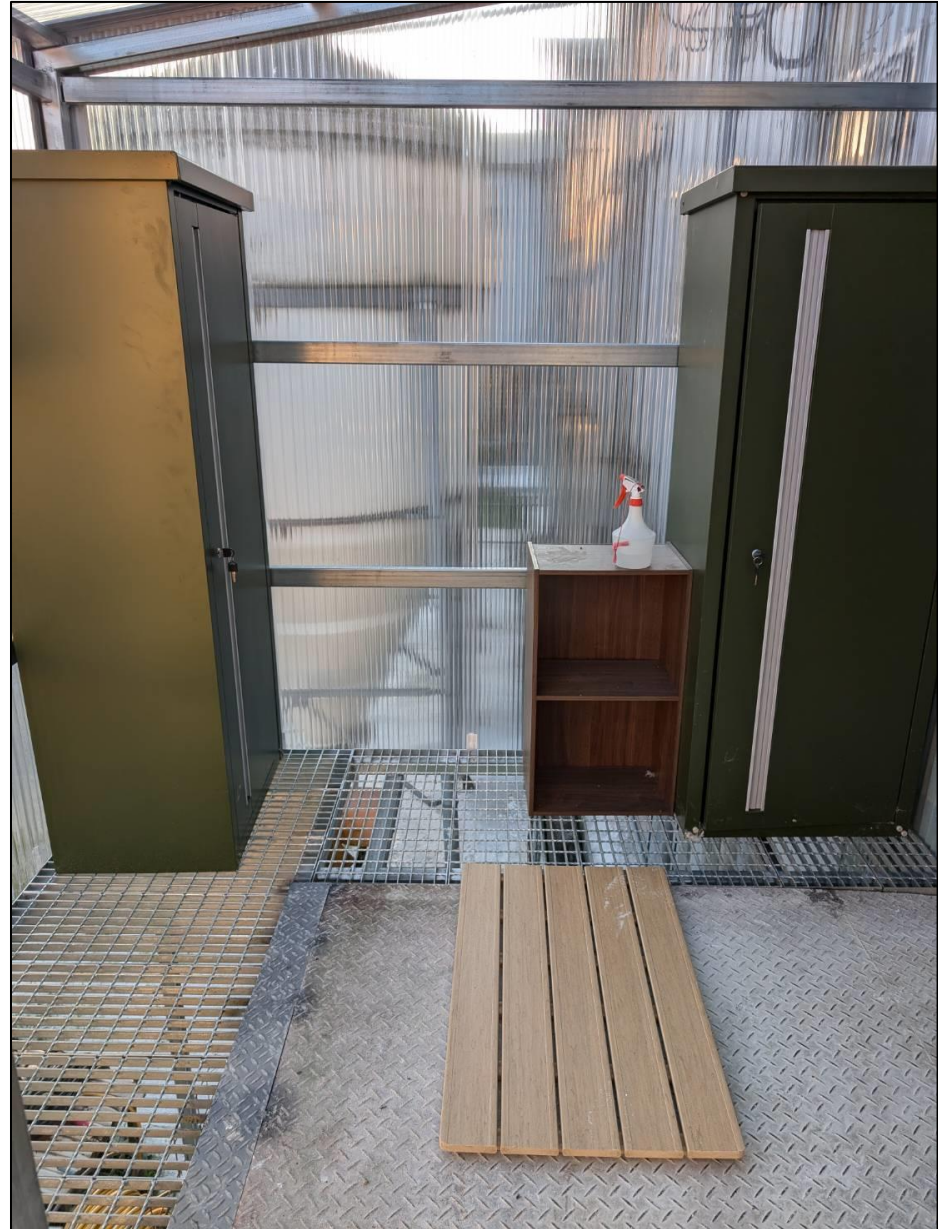
改善実施内容

- 1) 衛生管理区域境界へのフェンス
設置
- 2) 交差防止としてすのこ設置
- 3) 鶏舎入口への消毒スプレー設置、
手指消毒後の入場ルール徹底
- 4) 鶏舎間移動用の外部連絡通路の
仕様変更
- 5) 鶏糞搬出作業専用長靴・消毒
スプレーの設置

2-4. 農場防疫改善内容（写真①）



2-5. 農場防疫改善内容（写真②）



2-6. 新規埋却地の設定

再導入に向けた新規埋却地の準備



農場隣接土地の購入・造成



閉鎖鶏舎の解体・整地

3. グループ防疫体制の強化

3-1. 基本防疫の再徹底

「基本」に立ち返った防疫対策の再徹底

Q. グループ農場において、AI発生農場と未発生農場の違いは??

→A. 違いはない。
AIが発生しなかったグループ農場についても、改善が必要な箇所は見受けられた。

Q. グループ農場防疫体制の強化におけるもっとも重要なことは??

→A. 基本防疫の再徹底。
例えば・・・「飼養衛生管理基準」を全従業員が理解しているか？
踏込消毒槽をまたいで通っていないか？
消毒薬の希釈倍率は正しいか？ etc

「当たり前前のことを当たり前前に行えること」

3-2. グループAI対応マニュアル

「グループAI対応マニュアル」※抜粋

基本防疫 (通常防疫)

- ・飼養衛生管理基準全35項目の遵守
- ・農場来訪者の事前申請（行動履歴確認）
- ・異常鶏確認・家保通報後の卵・飼料・鶏糞移動禁止

レベル1 (防疫強化期間)

- ・消石灰散布（週1回以上）
- ・野鳥AI発生地域との交流自粛
- ・外部業者の農場立入規制（前泊条件）

レベル2 (国内家禽発生)

- ・農場出入車両のルート確認（発生地域を避ける）
- ・発生地域への立入禁止

レベル3 (隣県発生)

- ・農場出荷原卵荷姿の変更
（資材・什器による交差汚染防止）

レベル4 (県内発生・制限区域外)

- ・行政との協議
- ・宅配・郵便業者の利用制限

レベル5 (県内発生・制限区域内)

- ・消毒ポイントの通過
- ・原卵輸送車両の庫内消毒、集卵室内の消毒

レベル6 (グループ農場発生)

- ・行政指示に従った対応

3-3. グループ防疫体制強化①

農場・鶏舎内への野生動物侵入対策

【調査】 鶏舎内へのセンサーカメラ設置



【侵入防止対策】 鶏舎開口箇所への閉塞



3-4. グループ防疫体制強化②

空気感染対策の導入（鶏舎入気口への不織布設置）



3-5. グループ防疫体制強化③

農場内消毒体制の強化

農場内への消毒散布

農場バイオセキュリティの強化を目的とした
農場内消毒散布

- 散布場所：鶏舎周辺
- 散布薬：逆性石鹼（希釈倍率500倍）
- 散布頻度：週1回以上



逆性石鹼消毒効果向上

消毒効果向上を目的とした逆性石鹼への「水酸化カルシウム」混同

- 混合資材：水酸化カルシウム
- 混合割合：0.2%
- 消毒箇所：農場内消毒、鶏舎内消毒、廃鶏出荷用車両の消毒 等
- 効果検証：①広島県畜産課様との効果検証実施
②全農クリニックセンターでの試験実施

3-6. グループ防疫体制強化④

その他取組内容紹介



【長靴ホルダー】

- ・ 目的 : 農場内使用長靴の保管
- ・ メリット : ①長靴裏の汚れが分かりやすい
②ネズミ・害虫が入らない
③壁に掛けることで空間の有効利用

【消石灰散布機】

- ・ 目的 : 消石灰散布の効率化
- ・ メリット : ①作業者の労力軽減
②散布作業の短縮
- ・ 課題 : 舗装されていない場所は散布が難しい 等



3-7. グループ防疫体制強化⑤

その他取組内容紹介

【鶏舎間連絡通路の仕様変更】

- ・ 目的 : 鶏舎間連絡通路をパネルで覆うことで、外部環境との接触遮断
- ・ メリット : ①鶏舎間移動時の長靴履き替え不要
②野生動物侵入対策



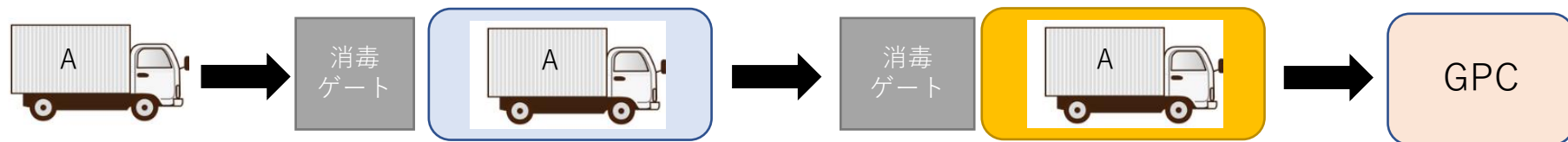
【踏み込み消毒】

- ・ 目的 : 踏み込み消毒槽内の衛生対策
- ・ メリット : ①蓋を設置することで、雨・雪の影響を無くす
②取っ手を付けることで効率化

3-8. グループ防疫体制強化⑥

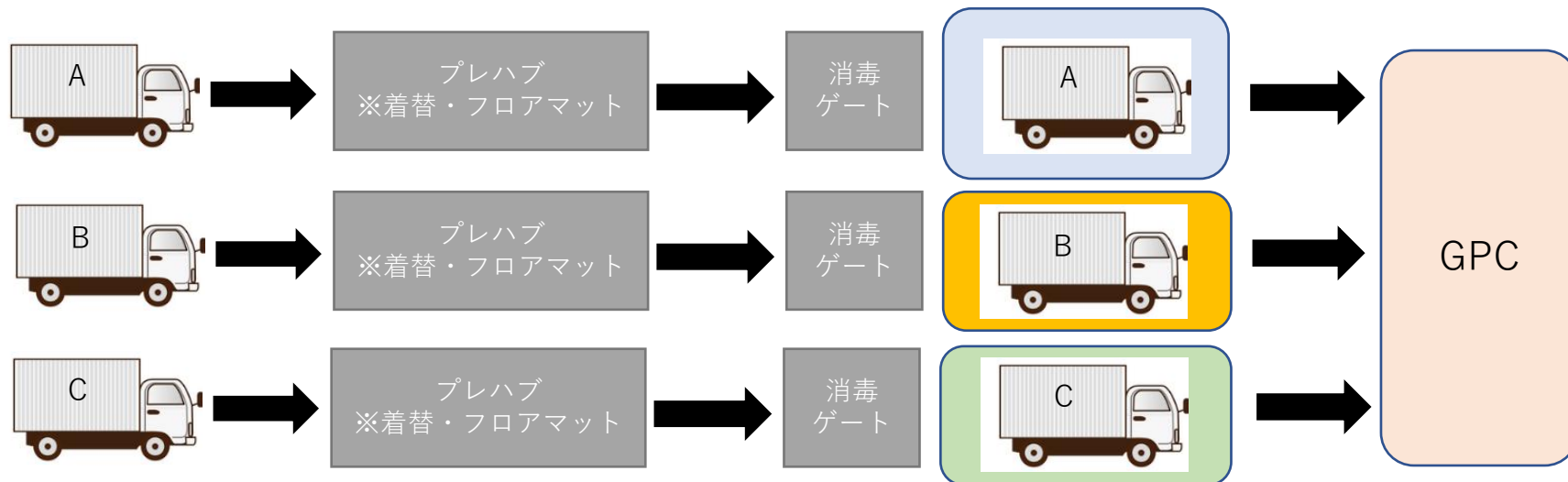
その他取組内容紹介（農場間感染拡大防止対策）

原卵出荷体制【従来】



原卵出荷新体制【変更】

農場間交差汚染防止対策として、**原卵搬送車両および運転手は農場専属化。**



4. 今後の防疫強化に向けて

4-1. 今後の防疫強化に向けて①

農場内野鳥忌避対策（カラス対策）

農場内に野鳥を入れない・近づけない！！

対
策
内
容

農場周辺ため池への対策

【農場周辺に近づけないために】

- ▶ ため池の水抜き（可能な範囲で）
- ▶ ネット・テグスの設置

カラス対策

【農場内に入れないために】

- ▶ 飼料タンク周りの餌こぼれ確認・除去
- ▶ 集卵用バーコン下の破卵等の確認・除去



農場に野鳥を近づけないための新たな対策検討
例）光・音などによる忌避対策



4-2. 今後の防疫強化に向けて②

農場防疫作業の効率化・省力化

【現状課題】

消石灰散布・消毒散布にかかる作業時間・従業員負担が大きい
→防疫強化期間は頻繁に必要な作業

【今後に向けて】

労働生産性向上および継続可能な作業となるべく、省力化・省人化を図る
→適切な散布を継続的に行えるように方法を見直す

鶏の免疫力強化（飼料・飲水等）

【現状課題】

免疫力向上を目的とし配合飼料への生菌剤添加（飼料工場or農場）

【今後に向けて】

間接的なAI対策として、鶏の免疫力向上に資する取組を検討
→他社様の取組内容について情報を集めて実践

最後に・・・

グループAI防疫体制の改善について

- ▶防疫体制の改善において、「パーフェクトは無い」
- ▶他社取組内容を参考に、学ぶ姿勢をもって
- ▶出来ることは全てやる、後で後悔することのないように

常に改善を！！

R7シーズンの取組

(1) 上半期（4月～9月）

- 発生農場の対策実例を学び、自農場の令和6年度対策を振り返る
 - ・ 各農場が行った効果的要因を分析する
 - ・ 各農場が想定する強化すべき点を分析する

アンケート調査



分析結果を今シーズンの対策に反映させる

- 農場経営体制の再点検
 - ・ 飼養衛生管理基準の水準の確認
 - ・ 従業員数や農場責任者の役割分担の時点確認
 - ・ 経営方針の変更の有無の確認
- 令和6年度シーズンの対策の振り返り（県）

(2) 下半期（10月～3月）

令和6年度を取組を基本に、状況変化分析及び情報収集を重ね、先手対策となるよう対策を行う。

(参考)R6シーズンの取組

令和2年度から5年度の発生を振り返り、ハード面に加え、ソフト面での対策を重視するとともに、当該シーズンの国内発生の疫学分析・情報収集に基づく対策の強化並びに切れ目ない注意喚起を実施した。

ア 当初対策（4月～10月：シーズン前）

- ・ 鶏舎入気口の点検・修繕
- ・ 野鳥（カラス等）対策（農場内の清掃（餌場の除去）
- ・ ため池対策（野鳥忌避対策）、
- ・ 農場自らの消毒計画の策定と励行確認・指導
- ・ 県作成動画研修会（4回・7ヵ国語）による衛生基本行動の従業員への浸透

(参考)R6シーズンの取組

- イ 追加対策（11月～12月：例年より早い国内発生及び隣接県での発生対応）
 - ・ 消石灰配布
 - ・ 入気口のフィルター設置、開放鶏舎の不織布設置
 - ・ 消石灰に加え、液体消毒液による埃の除去・消毒等
 - ・ 年末年始の農場作業体制の点検（衛生水準・意識の低下防止）
- ウ 強化対策（1月～2月：国内連続発生対応）
 - ・ 農場責任者緊急会議による連続発生分析の共有
 - ・ 従業員への動画研修会の再度の実施（衛生基本行動の再点検）
 - ・ 県内農場防疫対策優良実例（消毒、野鳥対策等）の取りまとめ及び共有
- エ 注意喚起（3月：国内未発生対応）
 - ・ 渡り鳥の北帰行対応（ため池対策確認：飛来防止）
 - ・ 野鳥対策確認（農場内清掃：飛来防止）
 - ・ 衛生基本行動の基本行動の再点検

【広島県アンケート】高病原性鳥インフルエンザ対策の振り返り

[通常ページへ戻る](#)

※本アンケート結果は、本県畜産課及び畜産事務所内でのみ共有し、目的外使用しません。

本県では、令和6年度シーズンに5年ぶりにHPAIの発生を抑えることが出来ました。これはひとえに養鶏農場をはじめとする関係者の皆様が一体となって予防に取り組んだ成果だと考えています。

一方で、HPAIは世界でも国内でも毎年発生するリスクとなっていることから、本県におけるHPAI未発生を継続させるために、次の目的でアンケート調査を実施いたします。趣旨を御理解いただき御協力をお願いします。

- 1 各養鶏場で令和6年度の発生予防対策を振り返ってもらい、各農場が行った効果的要因を分析する
- 2 あわせて、各農場が想定する強化すべき点を分析する
- 3 分析結果を今シーズンの対策に反映させる

※アンケートフォームは、ブラウザのクッキー(Cookie)を利用しています。(Cookie対応のブラウザでないと動作しません) お問い合わせフォームを開いてから60分を超えた場合、内容の送信ができなくなりますので、もし送信までに時間がかかる際には、事前にメモ帳やワードなどで文章を作成してから問合せフォームに貼り付けてください。

Q1：農場名（必須）

農場名を記入してください

Q2：氏名（必須）

Q3：メールアドレス（必須）

（再入力）

Q4：令和6年度シーズンに貴農場で発生予防のために取り組んだ対策で有効であった取組を教えてください（複数回答可）。（必須）

- ☐（1）人によるウイルス持ち込み防止対策（衣服の着替え、従業員教育、消毒など）
- ☐（2）野鳥、野生動物対策（農場の整頓、ため池対策、死体発見時の農場ルールなど）
- ☐（3）施設・消毒（分割管理、入気口対策、消毒計画の作成（頻度、水準）など）
- ☐（4）粉塵対策（動力噴霧器による農場消毒、着衣消毒、入気口対策（不織布、噴霧））
- ☐（5）共同施設（GP、堆肥場など）での衛生管理のルール化
- ☐（6）その他（上記以外）

Q5：Q4の質問で選択した取組の具体的内容を教えてください。

Q4で複数選択した場合は、番号を記載の上、記述してください。

Q6：令和7年度シーズンに向け、貴農場で発生予防のために重点的に強化したい取組を教えてください（自由記載）。（必須）

Q7：その他、県への要望や研修会の希望等があれば自由に記載してください。

確認する